

人の流れ創造部会

第1回	平成27年7月27日(月) ……………	11
	@小国町役場 庁議室	
第2回	平成27年8月20日(木) ……………	15
	@おぐに開発総合センター 集会室	
第3回	平成27年9月 9日(水) ……………	20
	@おぐに開発総合センター 集会室	

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第1回 人の流れ創造部会 要旨

- 日時 平成27年7月27日（月） 18:30～20:30
- 会場 役場3階 庁議室
- 出席者 懇話会委員： 山中知彦、舟山和樹、山口ひとみ、佐藤大雅、舟山玲奈
オブザーバー：野澤会計管理者、舟山地域振興主幹、仁科商工観光主幹
事務局： 佐藤政策企画室長、小野政策企画担当主査、渡部主任
- 概要 講師紹介、自己紹介に続き、事務局より会議開催趣旨とまちづくりの基本的な考え方等について説明した後、山中先生を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨（内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なる。）

（山中）進め方については各部会に任せるとのことだったので、特に準備をしていない。人数も少ないので、形式張らずに、ざっくばらんに進めたい。

私の小国町とのかかわりは深く、北部地域のブナ林の活用や森林セラピー、小玉川小中学校の校舎活用などの調査や計画づくりなどに関わった。6年半前に現在の新潟県立大学に移った。

（山口）出身は鳥取県で、結婚して小国に来た。食や環境に興味があって、町が主催するワークショップなどにもいろいろと関わらせていただいた。農家をしているが、最近は域学連携事業などの際に学生にご飯を提供したりして関わっている。どのテーマも生きていくうえでは切れないものであると、他の部会のテーマも含めて話をしていければと思う。

（舟山和）高校・専門学校、そして卒業して数年、小国を離れていたが、ずっと小国に帰ってきたいと思っていた。小玉川青年団いちは小玉川地域の30代から10代までの若い人の集まり。小玉川は遠出をしないと遊ぶことができなかったので、自分たちで楽しむ方法はなにかと考えて、いろいろ取り組んでいる。雪祭りは、町内外からたくさんの人に来ていただいている。

（舟山玲）1年生のときに「聞き書き甲子園」という活動に参加した。これは、全国の高校生が地域の伝統文化等を伝える「書き橋」になるというもの。その活動の中で学んだ過疎や文化が廃れるというところがこのテーマに共通するところがあると思い、この部会を選んだ。また自分が住んでいる小玉川地区はこのテーマに合っていると思った。

（佐藤）小国には愛着があって、廃れていくのはいやだなあと思っている。学校で町のことを話す機会がなく、町のこともきちんと話してみないと思って参加した。

（山口）小国は四季がはっきりしていて季節感を豊かに感じる。こんなに雪が降るのに、生活が

止まらない（マヒしない）のはすごいと思った。

また、東部地区は基督教独立学園があって、異質なものを受け入れる力が他より強く、嫁いできた時にかわいがってもらった。雪が降ることで、人の助け合いがあったり、大地からの恵みがあったりして、すばらしいと思った。小国はいろんなものを受け入れる力があると思う。

小国に来ると元気が出る人を交流人口と捉えて、小国に住む人とかかわりを持ちながら、交流をしていけばいいのではないかな。そうした中から、何かやりたいことが生まれて、それにチャレンジできることが大事なのではないかな。

(舟山和) 雪祭りには親子連れが多く来てくれる。またフェイスブックでも情報を流しているので、それを見て東京から来てくれるリピーターもいます。

不便なところなので、最初から移住のことを考えるのは大変なことだと思う。まずは「こんな楽しみ方があるよ」というのを形にして、見せていければと思う。自分たちが楽しめるってことが、はじめたきっかけでもあり、目的でもある。

熊祭りのときは、地元を出て行った人も帰ってきて手伝ってくれる。同窓会のように毎年楽しみだ。

(舟山玲) 小玉川に住み始めて1年と少しだけれど、小玉川は人と人のかかわりが深いと感じる。

私自身人と話をするのが好き。小玉川は人と人のかかわりが魅力だと思う。

町中に住んでいたこともあったが、小国の中でも町と田舎ではずいぶん違うと思う。町中は隣近所に興味がない。

(佐藤) 自分が住んでいるところは小国町の中では都会だ。小さい頃は岩井沢以外のお祭りにも行ったりした。

(山中) 佐藤さんは「小国」にこだわりがあるが、山口さん、和樹さん、舟山さんは、「小国」というよりも自分が属しているコミュニティに対するこだわりが強いようだ。外に発信する時に「小国」というくくりで発信するか、小玉川、胡桃平とうくくりで発信するかというところがポイントか。

また、移住が多いことがいいことなのか、もしかしたら交流人口で頻度が多く訪ねてくれる方が多い方がいいという意見もあるかもしれない。

(舟山玲) 国際関係に興味があるので、卒業後はそれを活かせる職業に就きたいと思っているが、小玉川、小国が好きなので、いずれは帰ってきたい。

(佐藤) 外に行って仕事に就きたいとは思っているが、仕事を辞めたら帰ってきたいと思う。

(山中) 6年半前に単身赴任で新潟に住むことになったが、地方に住んだのは初めてで、住んでみると地方に対する見方が変わる。また、都会に対する見方も変わってくる。外に魅力を発信するというとき、地元において地元から発信することと、外から見た時にどうなのかということもあると思う。

(山口) 都会の学生と関わっていると、こちらが思っている以上にさまざまなことを楽しんでくれ、小国を好きになってくれる。都会の生活と小国の生活に相当のギャップがあって、そこに驚くことの魅力を、人を引き寄せる手段として提案することが、次のステップになるのではないかと思う。

都会で物産品販売を行うが、販売した後のつながりがない。気に入ってもらったものはいつでも送れるよっていうアプローチをしていないと思う。小玉川に来てくれる人にも、「おいしかったらいつでも送ってあげられるよ」とか、「山菜のころもおもしろいんだよ」という案内が必要なのでは。その後のつながりを持つための仕組みが必要なんじゃないか。小国のファンクラブをきちんと整備していくことが次の段階なのかなあと思う。小国が第2第3のふるさとになる。ちょっと遠い親戚、何となくちょっと気にかかるねというような感覚。

(山中) 新潟の「かがやき農園」から米を取り寄せているが、送られてくるたびに季節の何かと言葉が一人一人宛に添えられている。妻はそこがまた気に入って友達にも紹介することにつながっている。都会に出て行った息子や娘に、実家から野菜や米を送る感覚。

(舟山和) 一人一人宛に言葉が添えられるのは大変だと思うがすばらしい。

(山口) やっている方は楽しい、決して嫌ではない。やだと思う人もいるかもしれないが。

(山中) 単純に仕組みを作れば誰でもできるかというものではない。

(山口) ただ、仕組みがあれば、フォローできる人が仕事としてやればいい。お土産探したり、書き添えたりが好きな人に発送お願いしますという仕事を作れたらば。自分が必要とされることをイメージできる状態にすればヒットする人はいると思う。

生産者だけでない、消費者だけでない、お互いを思い合い、支えあう関係じゃないと楽しくないし、長く続かないと思う。その関係が広がることで町の運営も楽になるのだと思う。小国に来ることが全てではなく、つながっていることが大切で、仕事に煮詰まった時に小国に来るといような、小国のプログラムをできるだけ用意できればと思うし、それが仕事になれば。

(舟山和) 小国の魅力というか、小国ならではの大量の「雪」、大量の自然、きれいな川、自然があふれている。ここで味わえる体験を子どもたちにしてもらい、楽しいと思えば、大人になっても帰ってきてもらえるような気がする。

小国の中では、それぞれの団体で動いていることが多いので、もっと連携できればいいと

思う。イベントなどがありふれている。いろんな段階が連携する場、例えば歌舞伎と連携すれば新しい魅力、すばらし発見があるかもしれない。

(舟山玲) 南部地区の中でもたくさん地域づくりをしている団体はあるし、東部だったり北部だったり中心部にもあると思うので、小国町を良くしようと思うなら、各団体が集まってこういう風に話し合うのもいいなと思う。

(佐藤) イベントをして人を呼び込むことだけ考えていたが、自分が必要とされる仕事を作って人を呼ぶという発想が思いつかなかった。

(山口) 次回は、町の意向などもお聞きしたい。

(舟山玲) 具体的なトピックがあった方がより深い話ができるのではないかな。

(佐藤) 目標が大きすぎるので、具体的なところがあった方がいい。

(事務局) 次回は、整理している事業や町で考えている方向性などをお示しして、それをたたき台としてご意見をいただければ。最終的には、具体的な施策があってもかまわないが、人の流れを作る方向性でもかまわない。

(山中) 小国の中でいろいろ人の流れに係る方がいて、小国の中のそれぞれで、がんばっていることがわかった。

またいきなり「移住」ではなくて、口コミ、ネットワークを使って徐々に徐々に深まりをつけていくということが良さそうだ。

そして、町全体として、人の流れを作るためへのつながりが、うまくつながっていないようだということもわかった。

2回目では、町の事業計画の整理したものやアンケートの結果なども出していただき、それについて話してみたい。

3回目では、「具体的にこんなことをしたらどうか」というところまでいければと思う。

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第2回 人の流れ創造部会 要旨

- **日時** 平成27年8月20日(木) 18:30~20:30
- **会場** おぐに開発総合センター 集会室
- **出席者** 懇話会委員： 山中知彦、舟山和樹、山口ひとみ、安部、隆利、
佐藤大雅、舟山玲奈
オブザーバー：野澤会計管理者、舟山地域振興主幹、仁科商工観光主幹
事務局： 山口総務企画課長、佐藤政策企画室長、小野政策企画担当主査、
廣瀬主任、渡部主任
- **概要** 前回の振り返りを行い、事務局より他の懇話会部会の内容、総合戦略の基本方針と基本的な方向、総合計画に沿った人の流れに関わる部分の事業等について説明し、その後、山中先生を中心に話し合いを進めた。

○話し合い要旨(内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なります。)

- ・前回の振り返り
- ・安部さん自己紹介

(安部) 古田歌舞伎は、昭和30年代に途絶えて、昭和60年代にまた復興した。復興したのは私の父の世代で、当時私は20代であまり関わっていなかった。興味はなかったが30代に参加しはじめたら、どっぷりはまってしまった。私と同年代の人も同じような感じである。私の10歳ぐらい下の人たちも少しずつ参加してきている。20代、30代の人たちがなかなか参加してくれなくて困っていたが、去年今年あたり20代の人が5名ほど参加してくれた。新発田市にいる私の娘の旦那も毎年見ているうちに興味がわきぜひ参加したいということで、今年から毎週末通って練習している。私たちの後継者を心配していたが、何とか目処が付いてきた。私がやり始めてから20数年、いろんな流れがあったが、去っていく人、来る人、やり続ける人と色々な人の流れがあったと感じている。古田歌舞伎の中では、そんな人の流れがあった。

(事務局から他の懇話会部会の内容、総合戦略の基本方針と基本的な方向、総合計画に沿った人の流れに関わる部分の事業等について説明)

(安部) 若い方が残れるような事業、一旦出て行った方が戻れるような事業、観光などで他県から人を呼び込める事業、その三本立てのようだが、私としては若い方が残れるような事業に

一番力をいれてもらいたいと思う。残れないというのは、仕事がないというのが一番なのかなあと感じる。

(山中) 雇用創出部会の内容に関わるところかと思う。まずは今いる人を大事にして、次に出て行った人を、次にJターン、Iターンのように縁がなかったけれどもこれから縁をつくる人、そうした順で重きをおくということですね。

(山口) 人の流れを呼び込むとなると、今町でやろうとしている事業だけでは足りないのではないかと思う。人の流れをつくる時に、活性化というか経済効果をしっかりと積み重ねないと結果につながらないと思う。しっかりと小国とつながってお金を落としてくれる。戻ってくる人や来てくれる人ということだけでなく、つながっていることを大事にする施策がもっとあった方がいいのではないかと思う。好きになってくれた人たちが常につながっている、学生として外に出て行っても何かしらの形で常につながっている、そういうことが仕組みとしてあってもいいのではないかと思う。ファンクラブやサポーターの仕組みで、町の人口は8千とか7千とかになるけれども、町のファンは2千とか3千とか、みんなで集めないと1万人のまちづくりなんて言えないだろうと思う。そういう動きが出てきてくれればいいなと思っている。

(舟山和) 中高生のアンケート結果で、イベントに関わりたいという人が結構いるみたいだ。若いうちは、楽しいことを自分たちでやりたいという気持ちがあると思う。そのきっかけを私や団体が作って手伝ってもらい、そういうところから小国から離れないようなつながり作りができると思う。今年の雪祭りでは、高校生カフェをやろうとしたが、都合が合わなくてできなかった。地元の人や域学連携の学生が手伝ってくれた。そうしたことがきっかけで「楽しいな」という思い出を残していってもらいたい。

(山中) アンケートの結果で、イベントに参加している実績や参加したいという希望を取り込んで、それぞれの個々の活動の中に仕組みとして作っていければ、山口さんが言うように積み重なってつながっていくと思う。行政はたぶん手が回らないから、町民の中で情報をうまく回して、一人一人が積み上げてつながっていけば、実現していくのではないかな。

先ほどの安部さんの話で、ずっと若い人が見向きもしなかったけれども、ここに来て少し入ってきているということであったが、何かきっかけがあったのか。

(安部) 沖庭小学校の閉校式のときに、古田歌舞伎を上演したが、若い年代の連中がそれを見て、「格好いいな」と思って盛り上がっていた。そこに声をかけてみたら、やってもいいとなった。勢いですね。

(舟山玲) 町民個人で移住やIターンを促進するのは難しいと思うので、まず小国のファンを増やす、小国の魅力を発信していくことが大切だと思う。私は外国に興味があるが、町の施策

に外国人観光客を増やすというがあるので、こういうところにつながって魅力を発信したりすることが、自分にはできるかなと思った。

(山中) 国際系に進みたいという希望があったけれども、雪を知らない外国人が雪まつりに来た時に、サービスできるというふうにつながるかもしれない。それはバラバラだった「国際系に進みたい」という希望と、「いつか帰ってきたい」という希望につながる可能性がある。

(佐藤) 生まれた時からずっと小国にいと、自然が豊だけれどもそれに慣れてしまって、少しずつ小国以外のことを知り出すと、小国の魅力に気づけなくて外に目がいってしまい、外で仕事したいと思う人が多くなると思う。若い人が残る事業ってなかなか難しいと思うので、高校卒業したら一旦出て、そこでつながっていける事業をする方が効率的だと思う。

(舟山和) 出ないとわからない魅力はかなりあると思う。

(安部) 親から、長男だから残れとずっと言われていた。高校を卒業して東芝セラミックスに入社した。時々半年ぐらい出張することはあったが、どこに行っても、小国はいいなと思っている。私も佐藤君ぐらいのときは、やっぱりよそに出たいと思っていた。ずっと暮らしているうちに、若い頃にはわからなかった良さがわかってきた。私の場合は、一番は人のつながりです。ここにいて一番の魅力は人のつながりだと思います。

(山中) アンケートの結果と町がやろうとしている施策等を見て、どういった点が足りないか。

(佐藤) 自分が一回出て、帰ってくることを考えた時に、あった方がいいと思うのは、買い物ができる所と、福祉のサービスもあった方が、Uターンしやすいと思う。不安があると戻りづらい。安心できるような施設がたくさんあった方がいいと思う。

(舟山玲) 親を見ていると毎日除雪で大変だと思う。除雪を充実することがいいのではないかとと思う。うちのじいちゃんは近所の5軒位の雪下ろしをしていて、そうしたものが事業としてあればいいのではないかとと思う。

(舟山和) 住むとなれば、雇用が大前提。小国にはいいところいろいろあるので、そうしたものを廻るツアーがあればいいと思う。タクシーで回れるようなことができればおもしろいと思う。小国町は不便だというアンケート結果もあったが、そういうところで何かできればと思う。

(山中) コミュニティビジネスのようなものでうまく回っていくといいと思う。

(山口) コミュニティビジネスをたくさんつくるのが、これからの打開策なのではないかと思っている。困っていることは全部仕事にできる可能性がある。まだまだつながっていないイベントとか、小国町全体として提案できるものがどのくらいあるのか、項目出しをしてどう組み合わせたらいいのか、そういうことをみんなで考えるといいのではないか。南部の

イベントに来た人に「来週は北部でこんなことあるよ」というような展開になるかもしれない。毎日のプログラムは難しくても、週末をみんなでフォローし合うといたことができるのではないか。

イベントに来てくれた人にファンクラブの案内をすとか、情報を出せる人をストックすることが重要なのではないか。

また、都会じゃないとできない仕事も減ってきていると思うので、環境のいいこちらでやってもらおうとか、そうしたことを発想してもいい時代なのではないか。みんなが、魅力を発信できるような、迎え入れられるような仕組みができれば、もっと楽になるのではないか。

(山中) デマンドタクシーは、観光的なニーズと福祉的なニーズもあるが、それを別々に考えるのではなく、コミュニティビジネスとして重ねていけば成立するかもしれない。個々の課題に個別に対応しているうちは、採算性などで解決できないことが多いと思うが、横につなげることが大切だろう。

また小国の中のそれぞれの地域で行っている活動やそれに関わる人たちがつながっていくことが大切ではないか。観光という面だけでなく、コミュニティビジネスを効率化させていくためにも、外から人を呼び込む前に、町の中の人とのコミュニケーションをもう少しつなぐということが前提なのではないか。

(安部) 各地区にいいイベント、いい団体があるけれども、その横のつながりが希薄だというふうを感じる。二昔前は連合青年団というものがあつたが、それと同じように、連合中年団でも連合老年団でもいいが、そういう人たちが集まって、お互いの情報を共有して、応援に行くかとか、盛り上げに行くかとか、団体同士で協力し合うことが必要だと思う。

(山中) 新潟県十日町池谷集落の事例紹介

- ・これまでの議論を踏まえたうえで、部会のテーマに沿った具体的なプロジェクトを3回目のプロジェクトまでに考え、ペーパーにしてくることを宿題とした。
- ・次回部会の日程を9月9日に変更した。

小国町地域創生総合戦略策定懇話会 第3回 人の流れ創造部会 要旨

- **日時** 平成27年9月9日(水) 18:30~20:30
- **会場** おぐに開発総合センター 集会室
- **出席者** 懇話会委員： 山中知彦、舟山和樹、山口ひとみ、安部、隆利、
佐藤大雅、舟山玲奈
オブザーバー：野澤会計管理者、仁科商工観光主幹
事務局： 山口総務企画課長、小野政策企画担当主査、廣瀬主任
- **概要** 前回の振り返り、アンケート結果の説明、他部会の内容紹介の後、人の流れ創造部会における具体的なプロジェクトについて話し合いを進めた。

○話し合い要旨 (内容に応じて再構成したため、実際の発言順とは異なります。)

- ・ 前回の振り返り

(事務局から他の懇話会部会の内容、総合戦略の基本方針と基本的な方向、総合計画に沿った人の流れに関わる部分の事業等について説明)

- ・ それぞれのプロジェクトの提案↓

(佐藤) 若者のUターン、Iターンを目的とした計画を考えた。Uターンでは、安心して戻ってこられる施設や環境が大事と思い、「安定した雇用」に着目して考えた。中高生のアンケートで、将来就きたい職業として「医療・福祉」関係に就きたい人が多かったので、満天の家やさいわい荘の施設を充実されることと、小国病院でオープンホスピタルを行い、大学などを卒業後、小国病院で働いてもらうことを考えた。「オープンホスピタル」とは大学のオープンキャンパスのように、誰でも病院の仕事を体験してもらえるもの。

Iターンでは、町外の人を引きつける事業として、体験活動に着目した。町外の大学生に空き家や高齢者宅の雪かき、また荒れた畑などの耕作をしてもらいながら、地域の人とかかわりを持ってもらうことで小国を好きになってもらい、移住につなげることを考えた。

(舟山玲)「小国町の良さを最大限に活かし、春夏秋冬賑わう町」をテーマにレポートを作成した。

町外に住む人にとって、どのような町だったらわざわざ足を運びたいか、考えた。

都会の企業ではストレスケアを促進していると聞いたので、小国への癒しの旅を提供できたらと思った。森林セラピー体験や小国の料理、温泉体験を通して小国にふれあってもらい、リピーターになってもらいたいと思った。小国町を第二の故郷と感じてもらえれば、熊まつりや古田歌舞伎にも来てもらえると思う。

春、夏、秋、冬とそれぞれ特色を活かしたイベントなどを考えてみた。「天然かき氷」は今

流行っていて、ネットで検索してみたら、近くでは日光でしか行っていなく、小国でやれば東北では初かもしれない。天然氷を作る環境が小国に合っていて、小国の良さでもある豊かな水を活かすには、これがベストなのではないかと思った。多くの集客も望めると思う。

データセンターは、都市に情報が集中している中で、災害時の混乱を未然に防ぐため、小国にバックアップとなるような施設をつくれば、企業の方が小国に単身赴任などで来ることになるので、小国に人の流れができるのではないかと思った。

(舟山和) コミュニティビジネスという視点で、まずは小国のすばらしさを知ってもらって、Ｉターンを呼ぶための内容を考えた。

一つ目は町営バスで、伝統的な技術や昔話を話せる高齢者の家の前に「伝統技術の駅」や「語り部の駅」というバス停をつくって、一定の時間話を聞いてもらい、また次のバスに乗ってもらうもの考えた。はじめは一ヶ月に一回でも、徐々に増やしていけたらいいと思う。定着していけば、そうした人たちの雇用にもつながるのではないか。

二つ目は、小国町内のイベント団体の「橋がけ」として、それぞれの団体がどのようなことをしているのかなどを細かく調べて、その中で協力できる場所があれば、協力できればいいのではないか。また、町でやっているイベントや他の団体がやっているイベントをまとめた「イベントマップ」があれば、お客さんもわかり易く来易いのではないか。

三つ目は、小国町の子どもたちや近隣の町の子どもたちに、小国町の自然のすばらしさを知ってもらうため、アスレチックをつくって遊んでもらえたらいいのではないかと思った。

(山口) 今現在人の流れとして、登山や温泉といった観光流入があり、他に自然や農業体験などの交流も少しずつ行われるようになっていて、そうした動きが太くなっていくのであればいいと思う。それに対して町内の団体同士が、情報共有をしていないので、もっと情報共有をしていけばいいのではないかと思う。そして新しく小国を元気にするネットワークのようなものが作れたらいいと思っている。今、森林セラピーのプログラムを作ろうと女性たちが何人か集まってOGN（小国を元気にするネットワーク）というグループを作っている。OGNは正式には発足していないが、今は10月3、4日に行われる女性向けのセラピーツアーのサポートをするため活動している。南部や北部そして高校生など興味のある人たちでOGNのようなグループを作り、集まって話し合いながら進めていけたらいいなどと思っている。いつでも小国に来て楽しめる状態になるのがベストだと思うので、プログラムの内容をできるだけストックして、毎週末できるイベントや年間スケジュールをみんなで作れたらいいのではないか。また、問い合わせの窓口がどこかがはっきりしていないので、明確化できればいいと思っている。そしてそういうことがコミュニティビジネスにつながっていったらいいなど

思っている。各地域で経済的自立ができるようになることが大事だと思う。コミュニティビジネスは有償ボランティアと捉えていて、少しでも収入があることで自分がするにも苦ではなくなり、それがお小遣いになったり、家計の足しになったりして広がっていったりするのので、有償ボランティアの仕組みをつくっていただけたいと思っている。そうした意味でエネルギー自給もできればいいなと思っている。

また現在、緑のふるさと協力隊や法政大学、早稲田大学の学生など、町外の人が小国と関わってくれているので、その人たちを窓口にして自分たちが楽しめるプログラムやコンテンツを作ってもらおうこと。また助人交流プログラムでは、農作業や除雪のお手伝いをちゃんと受け入れられるような仕組みをつくること。そうして小国に親しんでもらって小国のファンを組織化するためのシステムづくりをすること。さらに大学生ぐらいになるとかなり専門的な知識や興味もあるので、そうしたことを実験する場として小国を提供できたらいい。

(安部)「(小国への、小国の)人の流れを創生するには」をテーマに掲げてみました。雇用と地元活性と娯楽の柱立てで考えて、自己採点してみた。雇用面では、若年者層と高齢者層の人口増を目的に老人ホーム、グループホームの増設という手法を考えた。地元活性という面では地域団体・各種団体などの連携による人の流れの活性化を目的にイベント支援連合団体の設立を考えた。娯楽面では、町内外の人や文化の交流場の充実による人の流れの活性化を目的に総合センターと道の駅を統合した道の駅文化会館の開設を考えてみた。

・提案されたプロジェクトに対する意見交換↓

(オープンホスピタル)

- ・アンケート結果でも医療福祉関係に興味のある中高生は多かったのので、こうしたアイデアはいいと思う。参加してみたい人は多いと思うので実現できると思う。

(天然かき氷)

- ・小国でやるべきではないかと思うが、どう商売にしていくかは煮詰める必要がある。
- ・天然かき氷は、お酒を飲む人のために天然ロックとするのもいいのではないか。

(町営バス利用)

- ・バスで来て、次のバスまでゆったりした時間を過ごしてもらおうというのはすばらしい発想だと思う。

(イベント団体の架け橋、OGN、イベント支援連合団体)

- ・ネットワークを広げて進めていくのは大賛成だ。誰が先になってやっていくかが大事だと思う。
- ・OGNやイベントマップは、みんなでの意見が重なり合って、協力し合ってプログラムを

つくっていこうとできると思う。

- ・イベント団体の連携は自分が考えていることと同じなのでいいなと思った。
- ・OGNに「いちころ」も入れてもらえれば。イベントプログラムなどは同じ考えなのでいいと思った。
- ・個々で独立しているものをネットワークとして一つにすれば、強い力になると思う。
- ・イベント団体の連携は、もう既にOGNなど団体があるし、お金がかかるわけでもないの
で、やる気があれば絶対にできると思うので、実現可能だろう。活性化すればそうした中
から雇用も生まれると思う。人の流れも良くなると思う。

(老人ホーム、グループホームの増設)

- ・大きいものをつくるのは大変なので、空き家対策と一緒にしてやるのと取組やすいのでは
ないか。
- ・役場でのインターンシップの際、老人ホームの空きがなくて困っている人を見かけた。ニー
ズがあるので是非ともすべきである。
- ・大義名分もあるし、雇用も生まれるが、要介護者だけなので、要介護でない人も含めたら
いいのではないか。

(アスレチック)

- ・大学生などのワークショップでアスレチックを造ってもらうのもいいのではないか。
- ・町内外から親子連れで集客できるし、需要があるのでつくった分の元は取れると思う
- ・親子連れで来てもらって、小国に興味を持ってもらうことで、さらにどんどん来てもらえ
るのではないか。

(道の駅文化会館)

- ・語り部や伝統工芸も含めて道の駅にあれば、駅から道の駅までの送迎で、結構人は来てく
れるのではないかと思う。ゆるり座という語り部のグループやつる細工の会があるので、
そういう人たちが常駐していれば、結構来てくれるのではないか。
- ・総合センターが古くなって、新しい施設を造る計画があると聞いた。道の駅も太陽光パネ
ルを整備している。新しいことに取り組んでいるので、実現不可能ではないかと思う。
- ・総合センターは現在計画中なのであるし、経済効果もあり人の流れもあるので、とてもい
いと思う。
- ・長い目で見て必要だと思う。

(大学生の除雪、農作業体験)

- ・Iターンを呼び込むには大学生が楽しんでもらうことが大事だと思う。荒れた田畑の問題
も、これで農業も守れるのではないか。

- ・法政大学や早稲田大学の学生が来ていることは初めて知った。除雪や農作業などに参加してもらえればいいと思う。法政大学や早稲田大学だけでなく、全国の大学生にも、小国に来てもらったらいいと思う。

(データセンター)

- ・データセンターは災害が少ないのでいいと思う。雪対策は必要だが、逆にサーバーの熱を雪で冷やすといったこともできるのではないかな。

(コミュニティビジネス)

- ・お金にしていけるための団体・組織をつくるのが大切だと思った。

(赤芝峡を全国屈指の紅葉スポットに)

- ・紅葉スポット巡りをつくったらいいのではないかな。橋からの眺めがいい場所は結構ある。散策もできるといいし、町内の紅葉巡りを案内できるといいと思う。時間がかかるとお昼を食べることにもなるので、町内の施設を利用してもらうことにつながる。

(助人交流プログラム)

- ・大学生だけでなく海外の人を入れてやっているところもあるので、そういう方々も入れて楽しんだらいいのではないかなと思った。

(星空・蛍ウォッチング)

- ・都会は夜でも明るいけど、田舎は静かで暗くて、都会にはないきれいな夜空だ。都会にはない魅力で、都会の人にとってはいい活動になると思った。

(山中) 住民、Uターン、Iターン、ファンクラブの関係を図示するところ (別紙) なり、みんなのアイディアは、この図にそれぞれプロットできると思う。そして、こうした人の流れをつくるためのコアとなるもの、団体の連合だとかOGNとかイベント団体の橋がけとか、それが一番大事ではないかな。町内外の人の流れをつくるために一番大事なのは町内のネットワークなのではないかな。それによってさまざまなことができ、それによって交流人口、ファンクラブと関わることにより、自ずとIターンが増えると思う。コアとなる部分を固めて、ファンクラブが増え、その延長上にUターン、Iターンがある。そのため等身大、自分たちができることから固めていくことが一番近道だという気がした。

(安部) 有閑壮年層とした60代、70代は、何に燃えたらいいだろうと思っている人はいっぱいいると思う。そういう人たちに火をつけてやればできるのではないかなと思う。

(山中) 働いている人たちも、週末は参加できるし、中高生だって参加できる。そうした参加は町民のインターンシップではないかな。

(山口) 有閑マダム、有閑ダディに活躍してもらいたいが、それと若い人たちとのつながりができていないことがネックだと思う。ある程度の年代の人がちゃんと若い人にバトンタッチできるということが強い組織の要件だと思うが、小国ではできていないと思う。高校生もこうしていろいろ考えていて、それが実現していくから面白い。それが否定されると絶対につまらなく外に可能性を求めると思う。小国は可能性もあるし、外から見ている人もすごくいいところだと言っているのだから、いろいろなやってみたいことをクリアできる、やらせてくれる、というような場所になってくれるといいと思う。戻ってきていろいろやっているエネルギーあふれる人もいるので、そうした人をサポートする仕組みになればいいと思う。

(山中) 有閑マダム有閑ダディと若者をつなぐのに、子育てが終わった女性はつなぎ役として大事だと思う。女性は男性に比べるとつなぐ力がある。

(山口) 女性は人とのつながりが濃いと思う。家庭や地域でのお年寄りや子育ての中で子どもとおした他者とのつながりなど、会社、仕事ではないつながりがある。

小国の人は優しいといわれるが、適度に気にしてくれることが気持ちいい。みんなが気持ちよく暮らしていけるにはどうしたらいいのかという視点が大切だと思う。認めてもらいたいと思っているし、やりたいと思ったことが実現すると励みになる。関わったことが少しでも前に進めばOK。そうしたものが積み重なっていけば、大きな稼ぎにはならないが、何かあった時のセーフティガードにはなると思う。そうした仕組みがあれば、外からも受け入れられるし、外に求めることもできる。

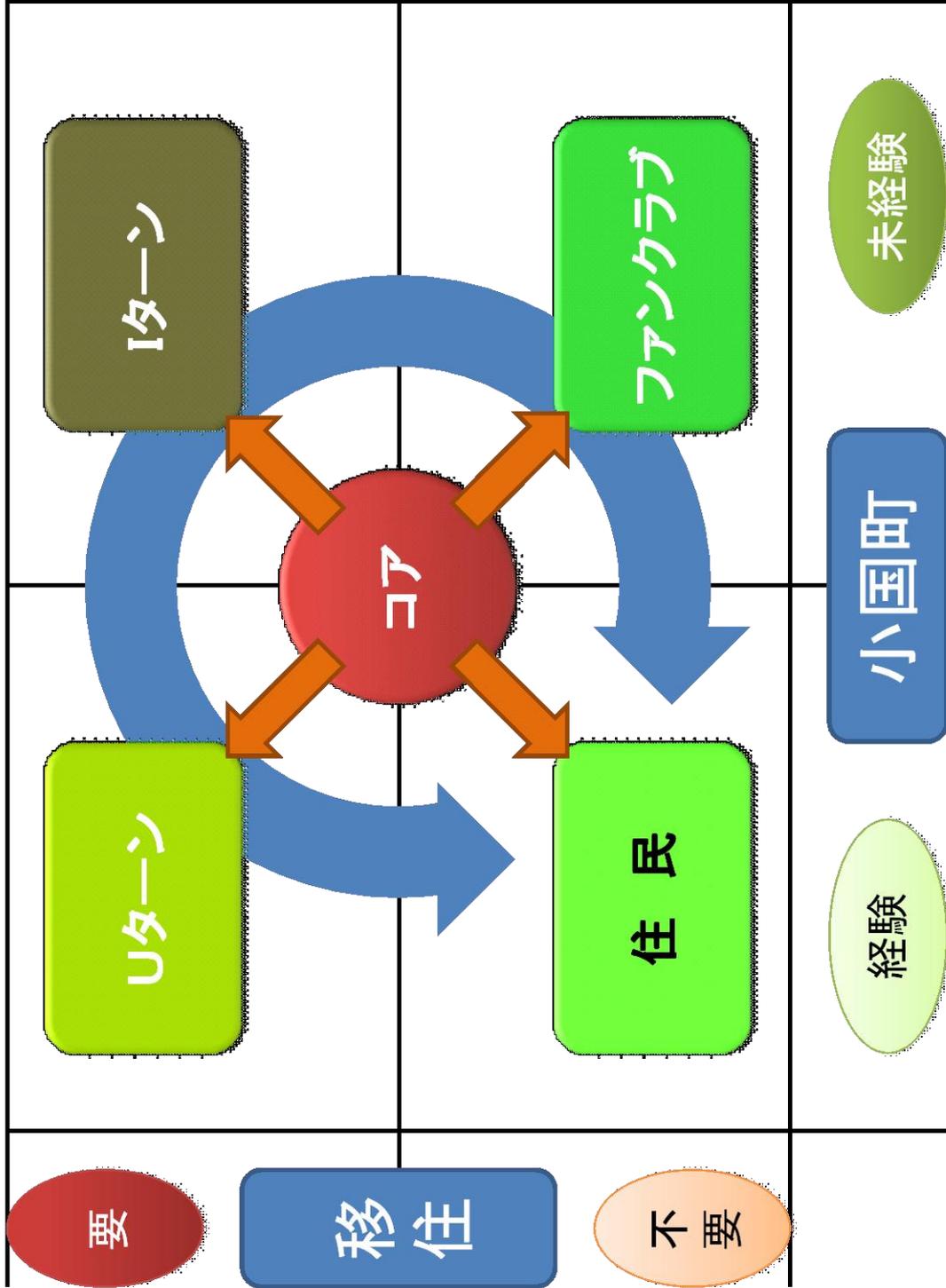
(山中) そうした仕組みは、町民だけでもできるかもしれないが、場をつくったりサポートしたり、行政がしてくれると心強い。

- ・ 第4回の部会は、他の部会と合同で、10月5日に開催することを周知。
- ・ 次回部会で人の流れ創造部会を代表として、山口委員に発表いただくこととした。

人の流れ関係図

(策定懇話会 人の流れ創造部会)

2015.9.9



目的：若者のUターンとIターン

○安心して戻ってこれる施設や環境

- ・食料品や生活用品の買えるところ
- ・安定した雇用←
- ・老後の福祉サービスが充実している
- ・交通機関が便利

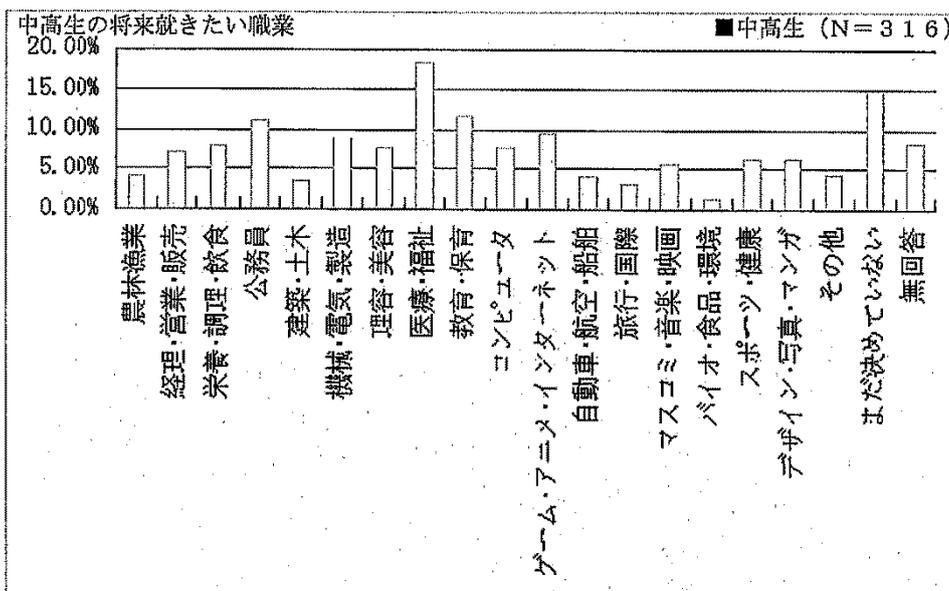
○町外の人を引き付ける事業

- ・体験活動←
- ・小国出身者による町外での広報活動

「安定した雇用」

←冬は除雪が大変になるので、それを利用して仕事を増やせば良い

←小国開発の雇用を増やす



・中高生が将来就きたいと思っている職業で、特に医療・福祉に就きたいと思っている人が多いので、満天の家やさいわい荘の施設を充実させる、小国病院でオープンホスピタルなどの体験活動を行い、小国病院の仕事に実際に触れてもらい、雇用の促進を図る。

「体験活動」

・冬は空き家や高齢者の家の雪かきが大変なので、それを利用して町外の大学生を呼び込む。そこで来た大学生は、地域の人たちと関わりをもち、小国を好きになってくれることで、小国への定住に繋がる。

・夏は荒れた畑などの土地を耕し、町外の人に農業を体験していただき、小国の自然の恵みを身をもって知ってもらう。

小国町の良さを最大限に生かし、春夏秋冬賑わう町

町外に住む人にとって、どのような町だったらわざわざ足を運びたいくなるような町か。ファンになれるのか。立場を置き換え自分なりの目線を考えました。

役場の方のお話からインスパイアされて、

都会の企業ではストレスケアを促進している ____ / 企業と連携し、小国町へ“癒し”の旅

① 温身平森林セラピー

飯豊山荘にあるストレスチェック、セラピーアテンダントなどでセラピーの質を向上させる。

② 小国の豊かな自然を生かした料理を振る舞う。(ex 雑穀・イワナ・山菜 etc)

③ 都会とは一味違ったおもてなしで、人の温かさを感じることのできる宿泊。小国町の良さを実感しリピーター (ex 熊祭り・古田歌舞伎・石楠花祭り etc) になってもらう。

④ リラックスできる温泉で疲れを癒す。

人の温かさや、人と人のつながりを実感し都会へ帰る。 ____ / また小国に行きたい。親しくなつたあの人達に久々に会いたい。 ____ / 第二の故郷

Spring

・日本一の観光ワラビ園を目標にし、観光者数の促進を図る。

観光者数のデータによると、観光者数が右肩上がりなのは、ワラビ園のみ。ワラビ園となると年配層が中心となることが予想される。

宿泊施設、ワラビ園スタッフを配置するなどといったサービス、交通(看板や駐車場)を徹底。

Summer

・流行りつつある天然かき氷を有名にする。

調べた限りでは、東北で天然氷のかき氷を作っているところはなく、全国的にもまだ少ない。日本一美味しいく、バリエーション豊富な天然かき氷を提供できれば小国町は注目されると思う。

ブナ茶屋で販売することで、より多くの人に知ってもらえることができる。

小国の良さの1つでもある“豊かな水”を生かすことができる。



(引用 Yahoo 画像検索)



冬、池に清水を入れ凍らせる。凍ったらカットし貯蔵庫に保管する。それを、夏にかき氷として販売する。

・星空・蛍ウォッチングで集客率アップ 米沢市の某温泉は蛍を売りにして集客し成功していると聞いた。きれいな星空や蛍を見ることができポイントを絞り整備する。

・昆虫採集で集客率アップ 親子連れで昼間森に入り昆虫採集をする。その際、森や昆虫に詳しいスタッフをつける。仕掛けを振るなど楽しめる昆虫採集を企画する。

fall

・理想としては、赤芝狭を全国屈指の紅葉スポットにする。

問題点①見通しが悪く交通量が多いため危険。

解決策①バスを使い、ブナ茶屋から遊歩道まで送迎。例えば、30分間隔など往復する時間を決める。

Winter

・横根スキー場を大々的にPRし観光客を集める。

周辺にハーフパイプのあるスキー場は少なく、横根スキー場ではオリンピック銀メダリストを輩出したため、ニーズが高いことが予想される。

現在よりも設備を整えたり、大会を主催するなどして集客率アップを図る。

また、小国町内でも競技人口アップを図ることも大切になってくるだろう。

データセンター

・現在、首都直下地震などが懸念されているので、災害時の混乱を防ぐために機密情報などのバックアップをとれるような施設を小国町に配置する。小国町は、地震・台風など周辺地区に比べても災害が少ない。また、サーバーは熱に弱いので山中に建設すれば夏でも機能するだろう。

小国町地域創生総合戦略策定懇話会

人の流れ創造部会の具体的なプロジェクトについて

舟山 和樹

前回までの議論の中で、「大事なのはコミュニティービジネスを生かして地域外の方々に小国の素晴らしさを知ってもらう」ことが大事だと思った。

1、町の公共交通機関を利用して集客する

タクシー・町営バスなどのバス停として、「伝統技術の駅」や「語り部の駅」など、昔ながらの小国町に伝わる伝統的な技術を持つ方々の近くにバス停（駅）を設置して、来たお客様に昔の小国町を感じてもらおう。最初は形にしていだけでも難しいとは思いますが、最初は1カ月に1回でも、徐々に駅＝小国の伝統を受け継いでいる方が増えていけば、定着するのではないかと。逆にこれが定着していけば、雇用にもむすびついていくと思う。

2、小国町の中のイベント団体の橋がけをする

小国町には、音楽、伝統、自然を活用してなど、様々な団体がある。しかし、実際は人手不足だったり、他のイベントと日にちが重なったりとばらばらに動いているため、なかなか集客ができなかったり、大きいイベントにしたいとできなかつたりという問題がある。

そこで、一度小国町の団体をリスト化して、その中でまたどのような活動をしているのか、団員数など細かく種別化して、協力できそうな団体同士で連携を取っていけば、さらに大きなイベントを作ることが出来るのではないかと。また、「小国町イベントマップ」を作って、いつどこでどんなイベントが開催されているのかが分かれば、お客様も来やすいと思う。

3、子供たちに小国の自然の楽しさを知ってもらう場所作り

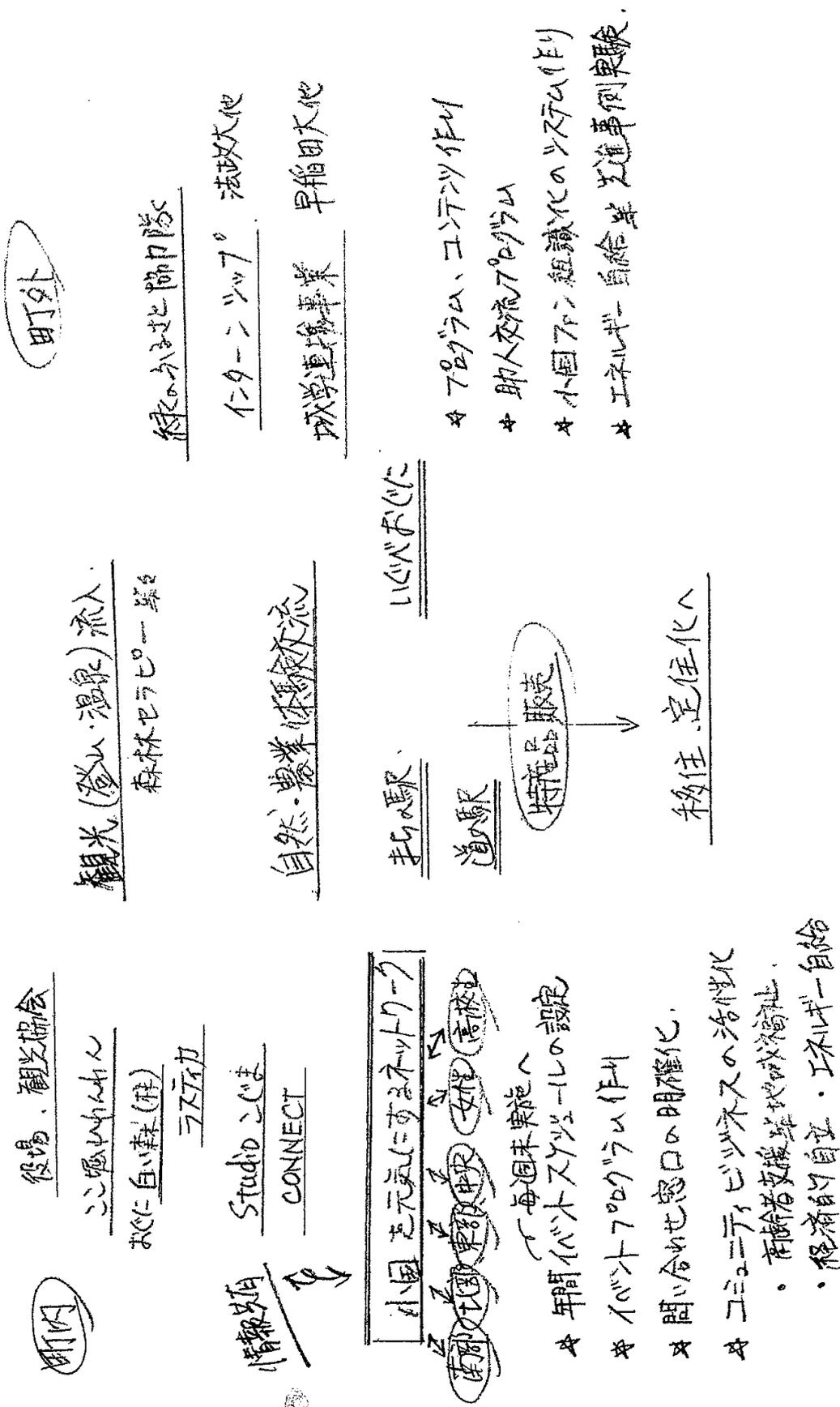
これは私の希望でもあるが、小国町にありそうで無かった、アスレチックを作る。これだけたくさんの樹や川などに恵まれているのに、意外と町の子供たちは触れ合っていないのでは？

気軽に楽しく自然に触れ合えるのはアスレチックだと思う。子供の時に自然と触れ合えば、大人になってもその良さは忘れないのではないかとと思う。

2015. 9. 9.

山口県庁

人の流入創造のための提案



町外

緑のふもとと節中隊

インターネット 法政大他

大学連携事業 早稲田大他

新駅

旧駅

特産品販売

移住・定住化へ

町内

役場・観光協会

この街のみんな

おにぎり白米(株)

スタジオ

Studio CONNECT

情報共有

小園志元交流促進ネットワーク

南前(土庫)東郷(中沢)女保(高校)

年間イベントスケジュールの設定

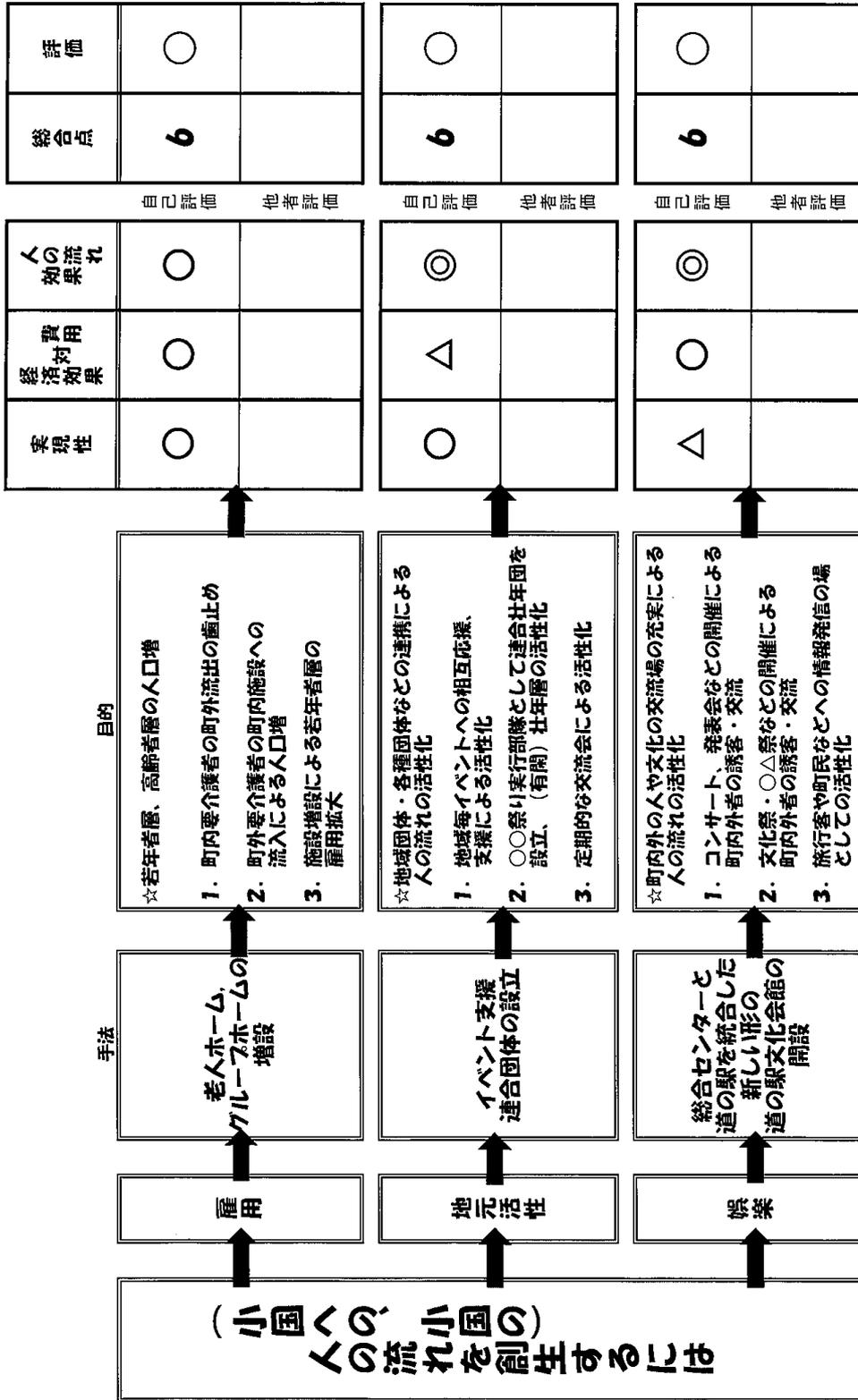
イベントプログラム作り

問い合わせ窓口の明確化

コミュニティビジネスの活性化

・高齢者支援基地域福祉

・経済的自立・エネルギー自給



◎ 3点・○ 2点・△ 1点
 ↓ ↓ ↓
 魅力・ 効果・ 効果
 ↓ ↓ ↓
 魅力・ 効果・ 効果

6点以上採用 ○ 採用
 × 不採用

